

# 校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

## 伝統の戸山・新宿対抗戦

6月1日(木)に伝統の戸山・新宿対抗戦(戸山高校では単に「新宿戦」と言っています)が行われました。これは都立戸山高校と都立新宿高校の2校だけの部活動対抗戦ですが、応援を含めて両校の生徒全員が参加する学校行事であり、昭和31(1956)年6月9日と16日の二日間にわたり12種目の対抗戦が初めて実施されてから、途切れることなく毎年6月に開催されています。当初は新宿・戸山それぞれの体育館やグラウンド等を使っての実施でしたが、両校の校舎改築等をきっかけに、駒沢オリンピック公園総合運動場を丸一日借り切って開催されるようになりました。

第62回目となる今年の新宿戦は、駒沢オリンピック公園内の体育館、陸上競技場、第二球技場、硬式野球場、テニスコートの他、今年の間番校である新宿高校の体育館とプールを競技会場として、卓球・バドミントン・剣道・水泳・男女硬式テニス、男女ソフトテニス、男女バレーボール、男女バスケットボール、サッカー、硬式野球、陸上の計15種目で熱戦が繰り広げられました。過去2年間は15種目の総合成績で戸山が新宿を上回りましたが、残念ながら今年戸山の勝利は4種目に止まり、三連覇はなりませんでした。それでもPK戦で惜しくも敗れたサッカーをはじめ、保護者や在校生の熱い声援のもと、各種目とも手に汗にぎる接戦で、多くの感動的な場面が展開されました。特に3年生にとっては、3年間続けてきた部活動の総決算として、一生思い出に残る大会になったことと思います。

先日、昭和31年の第1回新宿戦に参加したという戸山の卒業生にたまたまお話を聞く機会がありました。両校の生徒会同士で何回も話し合いを重ね、お互いの信頼関係が作られていくなかで、実現した行事であるとのことでした。今では考えられないことですが、東京都交通局にかけあって、当時明治通りを走っていたトロリーバスで応援の生徒たちをピストン輸送してもらったそうです。新宿高校の前身である府立第六中学校は、大正11(1922)年4月の開校後、現在地に校舎が完成するまでの一年間、戸山高校の前身である府立第四中学校の校舎の一部を使って授業をしていたということなので、もともと両校は姉妹校のような関係ですが、そうは言ってもこれだけのプロジェクトを立ち上げるには、相当な紆余曲折と苦労があったことと思います。現在に至るまで、新宿戦は戸山・新宿両校の生徒で構成される実行委員会が自主的に準備・運営に当たっていますが、都立高校2校だけの対抗戦がこれだけ長く続くというのは稀有なことであり、両校の生徒たちの戸山・新宿戦にかける熱い思いが、このような奇跡を生んだと言わなければならないでしょう。因みに、62年間の両校の対戦成績を調べてみたのですが、戸山の31勝22敗9分というのが正しいようです。スポーツに勝ち負けは付き物ですが、それ以上にこの数字は戸山・新宿両校の生徒たちの友情の証であり、両校の歴史と伝統を物語るものだと思います。

今回のタイトルは「伝統の戸山・新宿対抗戦」ですが、「伝承」が受け継いできた技術などをそのまま後世に伝えていくのに対して、「伝統」は古き良きものを受け継ぎながら、新しい手法も取り入れて、挑戦していく姿勢であると言われていています。戸山・新宿対抗戦が、長年培われてきた両校の信頼とそれに基づく協力関係を大切にしながら、未来に向けてさらに進化していくことを期待しています。